



「風が吹く→砂ぼこりが立つ→砂が目に入り目が悪くなる→三味線を弾く人（昔、目が悪い人の中には三味線を弾いて生計を立てている人がいた）→三味線のタイコは猫の皮からできている→猫が少なくなる→ネズミが増える→ネズミが桶をよくかじるようになる→桶を作っている桶屋さんがもうかる」となるのです。因果関係とは原因と結果の関係です。「風が吹く」という原因により「桶屋がもうかった」というかなり可能性の低い結果につながります。子どもたちは「わかるけど納得できない。」と自分でその論理を判断し、各自が「風が吹く」という原因から影響が及ぶ出来事を次々につなげ、楽しみながら文章を作っていました。

このように「言葉と言葉」「言葉と文章」「文章と文章」の関係を知っておくことで、さまざまな文章を自分から読み解く力が身に着くのです。「この文章と文章はこういう関係だよ。」と先生に教えてもらう学習ではなく、自分から論理的思考を働かせながら文章を読んでいく基礎を学ぶ学習でした。少し難しかったけど面白かったね。

### 3年生 図工 「こんな色できたよ」

「このかにさんに色を付けますが使える色は赤・青・黄の3色だけです」「えっ」と子どもたち。黒板に貼ってあったカニの塗り絵のサンプル画は何色にも色分けされ、塗り分けられていたからです。「赤だけで5色作ります。」「えっ」とまた子どもたち。「どうしたらいいですか？」の先生の問いに「水を使う」「水でうすめる」と何人かが声を上げました。「それじゃあ、水でうすめて色を作るとして、濃い色からぬる？うすい色からぬる？」の問いには答えが分かれませんでした。

先生の周りに集まり1色から5色をつくる方法を、子どもたちは食い入るように見つめていました。「先生はうすい色からと濃い色からと両方やってみたよ。まずうすい色からつくる」水をたっぷりつけて本当にうすいピンク色ができました。その次はちょっと筆を絵具にツンツンとつけて次の色。「おおー」子どもたちは早くやりたくて仕方ありません。「でも5色つくるのは難しいんとちがう？」私は声をかけました。先生が赤の5色を見事に作り上げ、やっと子どもたちの出番です。「この色とこの色ほとんど同じ色やな」「けっこうむずかしいな」それでも子どもたちはとてもよく集中して、色づくりを楽しんでいました。最後に残った何か所かは赤と青など、2色混ぜて色をつくってもいいというお許しが出ました。



水を使って薄めるだけで、微妙に色合いの違う多彩な表現ができる技術を学んだ楽しい授業でした。

## ネイチャー-BINGOやってます

中央小学校の身近な自然を子どもたちに見つけてもらいたくて、ネイチャー-BINGOを始めました。もうNo3まで来ています。季節はすぐに移り変わります。ぼーっとしていたら枯れてしまう草花もありビンゴを作るのに大忙しです。高学年の子どもたちだれか手伝ってくれないかななんて思っています。低学年の子が何人か「校長先生ビンゴしたよ！」と見せに来てくれます。でも賞品がないのが残念みたいです。賞品よりも自然に触れることが大事ですよ。



保育園との境ぐらいに咲いているトベラの花。いい香りがします。